令和４年度

ダイバーシティ就労支援連携会議

ダイバーシティ就労実践報告会

報告書

NPO 法人ユニバーサル就労ネットワークちば

(1)令和4年度　ダイバーシティ就労支援連携会議　報告

＜開催目的＞

第 1 部では本モデル事業に関連した各支援機関の支援者に対し、改めて事業内容の周知と今後について説明することと、本事業に関しての意見交換を行った。また、第 2 部では、令和 4 年度の千葉県におけるダイバーシティ就労の取り組みを報告会という形で発表し、より多くの人に本事業を知ってもらう機会とする。

＜開催要領＞

【第１部　令和4年度　ダイバーシティ就労支援連携協議会】

開催日時　令和５年3月10日(金)13:15～14:45(受付開始　13:00～)

開催場所　千葉県教育会館　501会議室

開催内容

(1)参加者自己紹介

(2)ダイバーシティ就労の事業概要について説明

(3)事例紹介と効果的な支援について

(4)質疑応答と意見交換

参加者一覧:

当日は参加者から各事業所に存在する就労困難層の実態やダイバーシティ就労のメリット等について現場目線での意見交換を実施した。

一方で、地域若者サポーとステーション事業や就労準備支援事業(困窮者支援)との役割分担が不明瞭な地域もあり、さらに事業説明を進めていく必要性を実感した。

1	支援者	千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会	会員
2	支援者	千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会	副会長
3	行政	千葉県健康福祉部健康福祉指導課	（中核担当）
4	支援者	千葉県生活困窮者自立支援実務者ネットワーク	就労支援部会
5	支援者	千葉県生活困窮者自立支援実務者ネットワーク	就労支援部会
7	受入事業所	WIB JAPAN株式会社（あらたSOGABASE、あらた稲毛海岸、Camp稲毛海岸）	代表取締役
8	受入事業所	就労継続支援B型Camp稲毛海岸	サービス管理責任者
9	受入事業所	特定非営利活動法人やさしい心（就労継続支援A型　やさしい心さくら）	代表理事
10	支援者	ちば若者サポートステーション	総括コーディネーター
11	支援者	千葉県子ども・若者総合相談センター『ライトハウスちば』	
12	支援者	千葉県総合難病相談支援センター	MSW
13	支援者	千葉市生活自立・仕事相談センター花見川	相談員

14	所管	千葉県健康福祉部健康福祉政策課	副参事（兼）政策室長
15	所管	千葉県健康福祉部健康福祉政策課	政策室　副主査
16	所管	千葉県健康福祉部健康福祉政策課	政策室　副主査
17	運営	NPO法人ユニバーサル就労ネットワークちば	副理事長
18	運営	NPO法人ユニバーサル就労ネットワークちば	事務局長
19	運営	NPO法人ユニバーサル就労ネットワークちば	ダイバーシティ就労担当
20	運営	NPO法人ユニバーサル就労ネットワークちば	ダイバーシティ就労担当

【当日の寄せられたご意見(抜粋)】

・(支援者)男性や女性、障害や障害でないというところが選べない人も多くいる中で、支援者はそこを選ばせてしまってはいないかと葛藤しているところがあった。本人も苦しいところがあったと思うと、選択肢が増えたことは当事者にとっても支援機関にとっても良かったと思っている。

・(受入事業所)2 名の方を受け入れている。一般就労で活躍できる力はあると思うが、今まで社会に接点がなかったり、人間関係の苦手意識があり、そこの部分を支援していければ一般で就労できると思っている。

・(支援者)支援機関が長期になったり、障害があると思われる層の行き先がなく困っていた。このお話を聞いて、大変助かっている。実際に利用を開始した人も多数いる。他の地域からも紹介していけたらと考えている。

・(受入事業所)新しい技術を使った就労訓練を実施しており、興味を持って取り組んでもらっている。スタッフとして登用することも今後検討している。こちらに来ている人も同じく、就労能力はあるものの、社会体験等が少なく人の目が怖い傾向がやはりある。もともと私たちの施設でははっきりと障害者手帳を持っていたり、明確になっている。が、そういった経緯がない人が7ヶ月間という現在の期間設定の中では短いなと感じ、どのように支援をしたら良いか当初は悩んだ。今後も課題として出てくるのではないかと思う。

・(支援者)生活困窮者の支援を郡部地域で行っている。過疎地域では、一般の就労支援が通用しない高齢者などが多かったり、職場がそもそもないという問題があり、一般就労だけでは解決しないことが多い。ダイバーシティ就労の存在はありがたいものの、就労準備支援事業との線引は分かりづらいところがある。また、ダイバーシティ就労が終わったあとのその後を、こちら側で検討していく必要があると考えている。

【第2部　令和4年度　ダイバーシティ就労報告会】(オープンイベント)

開催日時　令和5年3月10日(金)15:00～16:30(予定)(受付開始　14:45～)

開催場所　千葉県教育会館　501会議室

申込者数　92 名

参加者数　82 名

プログラム

※プログラムは若干変更になる可能性がありますがご了承ください。

時間	プログラム	登壇者
14:45～15:00	受付	
15:00	開会	
15:00～15:05	開会の挨拶	
15:05～15:25	ダイバーシティ就労が目指すもの	NPO法人ユニバーサル就労ネットワークちば 理事長　池田　徹
15:25～15:50	令和4年度千葉県の実施報告	NPO法人ユニバーサル就労ネットワークちば 事務局長　鈴木　由美　・　相談員　嶺　千鶴子
15:50～16:10	その他自治体の取り組み ①岐阜市の取り組み ②福岡県の取り組み	一般社団法人サスティナブルサポート 代表理事 後藤　千絵 さん 福岡県就労支援協同組合 理事長 中村　信二さん
16:10～16:20	休憩	
16:20～16:50	会場からの質疑応答と意見交換 ・千葉県の報告について ・その他自治体の報告について	※千葉の報告や各自治体の報告全体の質疑応答や意見交換を実施します！
16:50～16:55	これまでの報告からコメント	法政大学現代福祉学部 教授 眞保　智子さん
16:55	閉会	NPO法人ユニバーサル就労ネットワークちば 副理事長　平田　智子

申込みした人の多くが参加する結果となり、本事業の関心の高さを伺うことができた。また各都市で実践している団体にも声をかけ、モデル事業全体の今年度の総括を行うことができた。日本財団で開催しているダイバーシティ就労に関係する講演会は、制度・政策といった大きな枠組みでの議論のみのため、このように現場目線での報告会は初めてだった。会場からも質問も多く寄せられ、その質問内容も、今後利用をすることを前提とした質問も寄せられた。次年度も引き続きこのような地域での連携、事業単位での連携を重視した報告会を開催したい。

(発表内容は別紙配布資料)

当日の発表資料一覧

2023年3月10日(金)
令和4年度ダイバーシティ就労モデル事業
実践報告会

ダイバーシティ就労
令和4年度実践報告

～法人紹介・事業概要～

NPO法人ユニバーサル就労ネットワークちば
事務局長 鈴木 由美

1

法人紹介

NPO法人ユニバーサル就労ネットワークちばとは

2

NPO法人ユニバーサル就労ネットワークちばとは？

生活クラブ
風の村
社会福祉法人生活クラブ

・千葉県内に80ヶ所近くの事業所（高齢者介護・保育・児童養護・障害者・困難者相談支援等）を持ち従業員数1700名の法人
・地域貢献の一環で「働きづらさを抱える人の就労支援」を自分たちの事業所に受け入れをして支援することからスタート（2006年～）
・ステップアップしながら築く「ユニバーサル就労（中間就労）」の仕組みを構築。これまでに約200名が働いている。

生活困窮者自立支援制度の就労訓練事業のモデルの一つとなる

UWN
NPO法人ユニバーサル就労ネットワークちば 設立

・ユニバーサル就労を社会福祉法人だけではなく、広く普及推進していくために法人格を取得し千葉市中央区で事務所を設置（2015年4月）。
・風の村のユニバーサル就労支援を実施
・その他協力事業所のユニバーサル就労の導入支援を実施

※その他事業については後ほど～

Copyright © 2023 Universal Work Network CHIBA

3

NPO法人ユニバーサル就労ネットワークちば 事業概要

事業内容 （職員総数25名・事務局（千葉市花見川区）		
当事者・企業支援	ユニバーサル就労支援（当事者・事業所） ダイバーシティ就労モデル事業	・ユニバーサル就労を利用したい当事者と受け入れたい企業のマッチング ・受け入れ企業の開拓 ※風の村以外にも各員企業の支援を一部実施
	千葉市生活自立・仕事相談センター花見川（自立相談支援機関）	・千葉市委託事業
	千葉市就労準備支援室（就労準備支援事業）	・生活困窮者自立支援制度
	千葉市ひきこもり地域支援センター	・千葉市委託事業
	千葉市子ども・若者総合相談センター	・千葉市委託事業
その他	自治体コンサル・企業の就労導入支援	ユニバーサル就労導入支援アドバイザー
	相談員研修事業	千葉県内の市町村の相談員を対象とした、ひきこもりの支援者の研修
	チャンス創造ファンド	交通費の対象に必要な経費を給付する制度
	千葉県生活困窮者自立支援実務者ネットワーク	就労支援部会報告
	調査研究事業	ユニバーサル就労評価指標作り（科研費等）

Copyright © 2023 Universal Work Network CHIBA

4

ユニバーサル就労（UW）とは…

<理念>

①「はたらきたいのに、はたらきにくいすべての人」が働けるような仕組みを作ると同時に、誰にとっても働きやすく、働きがいのある職場環境づくりを目指していく取り組みです。

そして、②より多くの人が、その人なりの働き方で社会参加できるユニバーサルな地域社会づくりを目指しています。地域社会の中で、自分なりの働き方で「わたしたちは会社ではたらいています」と実感できるシステムです。

Copyright © 2023 Universal Work Network CHIBA

5

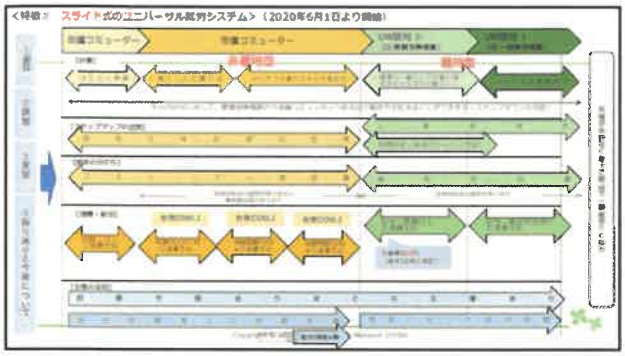
ユニバーサル就労の理念を実現する具体的な仕組み（システム）

<特徴>

①対象者を限定しない
②スライド式の就労ステージを構築
③業務分解
④外部支援者とのチームによる定着支援

Copyright © 2023 Universal Work Network CHIBA

6



ユニバーサル就労を取り巻く社会状況

◆共生保障という考え方

岩波新書「共生保障（支え合い）の戦略」宮本太郎著

～ユニバーサル就労とは、支援付き就労と一般就労をつなぎ連結し、多様な人々が力を発揮できる職場をつくっていくことである～として一般名詞として使われ、社会化しつつある。

◆富士市ユニバーサル就労推進条例・ユニバーサル就労推進基本法

議員立法で全会一致で成立した条例のため、行政の強押しがえられ、市独自の認定基準あり。企業連携の動きが民間だけのものよりも圧倒的に早く、市民に理解してもらえるメリットが大きい。

◆稲沢高田市ユニバーサル就労支援センター

ノーマライゼーションという言葉のいらない街、震災復興のキーワードの1つがユニバーサル就労

◆とばびと応援プロジェクト（鳥羽市民就労促進による産業活性化事業）

観光地での働き手不足の解消と生活困窮者支援事業に連携した取り組み、旅館、ホテルの業務分解

福祉×観光　鳥羽市民の就労促進（リクルート・UWNちば＋行政）

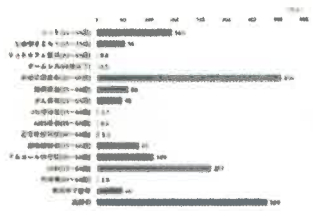
◆大阪府　改正ハートフル条例（ユニバーサル就労条例も条例名候補）、行政の福祉化のさらなる推進

◆生活クラブ千葉、生活クラブ東京、大阪府社協、長野県（諏訪郡社会）、神奈川県（中心会、生活クラブ神奈川）、富山県（加賀郡社会）、和歌山県（ふれあいコープ、ユニバーサル就労ネットワーク和歌山）…等でもUW

モデル事業
～日本財団・WORK DIVERSITY！プロジェクト～
障害者手帳を持たなくても　多様なはたらきづらさに応える

9

はたらきづらさを抱える人



・現在全てを一覧とした調査は存在しないことから、公表されている資料の数字を集積したものが下数。単純な個人で1500万人を超えると推定。中にはすでに働いている方、療養した経験にわたる方があると推定され、その実数は約600万人と思われます。
（日本財団HPより）

https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/work_diversity

10

新就労支援システム

・少子高齢に加え、現実化していく社会保障増大、労働力不足社会。この喫緊の課題解決に既存のシステムを新たな視点で活用し、個々のQOLを高め、社会に新たな労働力を輩出しようとするプロジェクトがWORK！DIVERSITY（ダイバーシティ就労）です。その具体的なシステムは、縦割りに展開されている各就労支援事業を横断的に再統合するダイバーシティの機能を有します。ただし、それは新設するものではなく、既存のものを活用する計画です。ベースとなる就労支援機能として対象者別に各種展開される就労支援事業の中で最も整っていると思われる障害者総合支援法における就労移行支援事業および就労継続支援A型事業を活用する構想です。現行、このサービスは障害者以外に活用することができませんが、その就労支援の内容は働きづらさを抱える多様な人々に活用できるものと考えられます。

https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/work_diversity

11

構想をもとにモデル事業を3都市で実施

・各地域の特色や支援のネットワーク等により、その展開方法や手法は異なっており、まさに地域独自のモデル事業が個々に展開されている。

・モデル事業から見えてきたメリットや課題は何か？

12

2023年3月10日
ダイバーシティ就労モデル事業
実践報告会

ダイバーシティ就労
令和4年度実践報告

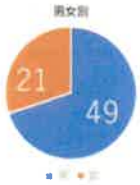
～実績・成果と課題～

NPO法人ユニバーサル就労ネットワークちば
ダイバーシティ就労部　及川・藤

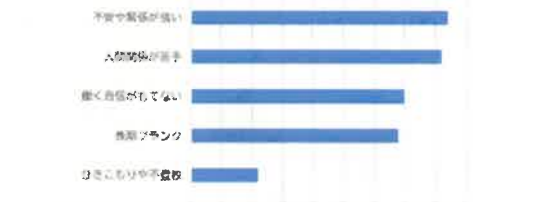
事業のイメージ図

◇◆◇　支援実績（令和４年９月～令和５年３月６日）　◇◆◇

初回面談７０件　（相談・問い合わせ１２７件）



働くうえで心配なこと（初回面談時聞き取り）



事業所見学	７５件	登録事業所数	１２３件
↓			
体験実習	５０件	A型事業所	３１件
↓		B型事業所	３９件
就労・通所開始	４２人	移行支援事業所	４３件
		一般企業	１０件

A型事業所	・・・１１人	→２人終結	・一般就労（就労後退職） ・福祉サービス利用（継続利用）
B型事業所	・・・２５人	→２人終結	・福祉サービス利用（継続利用） ・就労意欲低下、生活状況見直し
就労移行	・・・　４人		
一般企業	・・・　２人	→２人終結	・直接雇用 ・体調不良により中断

◇◆◇事例紹介◇◆◇

２０代男性・生活

[illegible]

→B型事業所　約５日利用開始

→３ヶ月後「自分で自分の将来を考えることがなかった」　考えられるようになった。

→事業所見学に行った。就労体験で配置されたルートが事業所内の一番大変な場所であることをサポート

５０代女性・生活

[illegible]

→B型事業所　約４日利用開始

「就職前の仕事を体験して、体力に自信をつけ直したい」　面談後２週間で来ました

３０代男性・中核

[illegible]

→A型事業所　約５日利用開始

「事業所」とは？　何をするかを聞いた。　この働きかけに始げ

→利用。　自分で続けるためには手帳取得も視野に。

３０代女性・中核

[illegible]

→一般企業　約２日３時間利用開始

「楽しい。　ここで続けたい。」→２月からアルバイトで採用。　本人からも続けたいとの意思

３０代男性・生活

[illegible]

→B型事業所　約５日利用開始

「１ヶ月あってなんて、ここが楽しかった。」　色々な相談が出ている。もしかしたらB型など福祉サービス利用するこ[illegible]

２０代男性・サポステ

高校中退後、外出に出るのが嫌で就活せず。以前の[illegible]

→A型事業所　約５日利用開始

「出来ないことは無理でもやるし、言われないのが安心。　[illegible]」

成果と課題

・各支援機関のDMに対する反応が高く、初[illegible]面談やその後の支援の連携がスムーズ
→相談者の障害福祉サービス利用への抵抗が低いことに繋がっている（説明用チラシを準備）

・社会に出ることが怖い、今の自分が働けるのか不安、コミュニケーションが苦手などの課題に対して
→各事業所には働くことを支援するスタッフがいる
→事前に、見学、体験が出来ることから“まず行ってみよう”“やってみよう”という前向きが出来る

・各事業所の皆々に寄り添った支援により、利用者が安心して通所出来る。
それにより、課題に向き合うなど次のステップに進める

・[illegible]利用することにより、障害福祉サービスへつながる人が[illegible]数位（[illegible]が進む、続き続けるために）

・当初は７か月間（３月まで）の支援としてスタートしたが、継続した場合の期間の設定が難しい

・有期の事業のため、モニタリングを重ねながら出口を意識した支援となるが、一般就労へのハードルは高いと感じる。[illegible]解のある職場という観点で企業開拓まで出来るとよりよい成果になると感じる。

令和４年度　ダイバーシティ就労報告会
～ 岐阜市の取組み ～

2023年3月10日

Sustainable Support

Ⅰ．岐阜市の取組み

Sustainable Support

岐阜市の立地概要

岐阜県の県庁所在地および最大の都市。中核市に指定。
◆面積：204km2
◆人口：397,991人

◆岐阜ー名古屋　およそ30キロメートル（電車で20分）

岐阜県
◆面積：10,621km2
◆人口：1,945,350

岐阜市の現状

人口減少
少子高齢化

生産年齢人口減少
労働力低下

多様な働きづらさを抱えた人が働ける機会や環境の確保が必要

岐阜市におけるワークダイバーシティ

既存の支援制度の対象となっていない、
多様な働きづらさを抱える人たち

若者　ひきこもり　LGBTQ+　障害者　がん サバイバー
ニート　女性　高齢者　難病者　生活困窮者　外国人

多様な働き方を支える取り組み

テレワークを活用した ショートタイム ワーク事業

WORK!DIVERSITY 実証化モデル事業

柔軟時間雇用 創出事業

誰もが自分らしく働けるまちに！

岐阜市におけるワークダイバーシティ

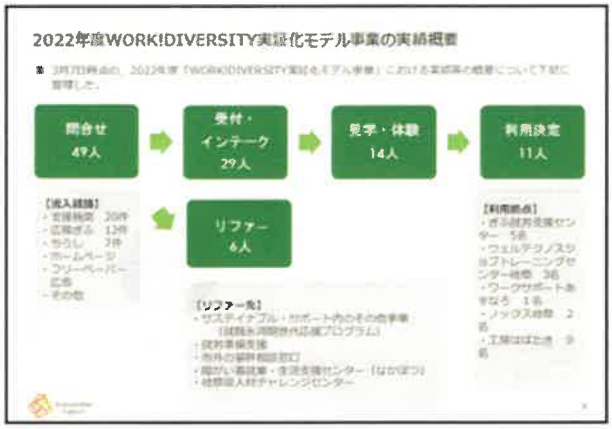
WORK!DIVERSITY 実証化モデル事業

テレワークを活用した ショートタイムワーク事業

柔軟時間雇用 創出事業

Ⅱ. WORK!DIVERSITY実証化モデル事業の実施報告

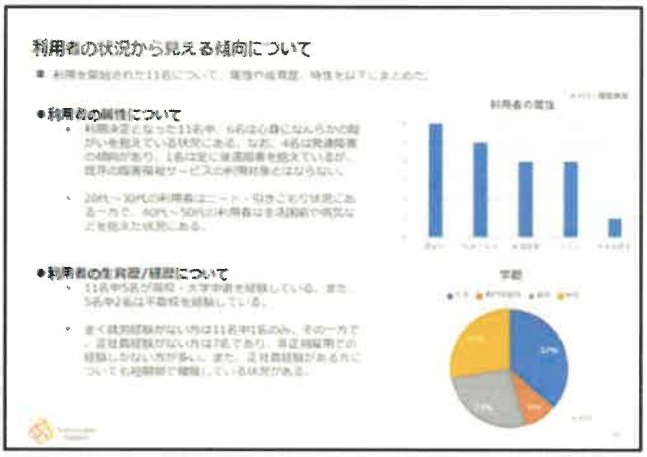
Sustainable Support

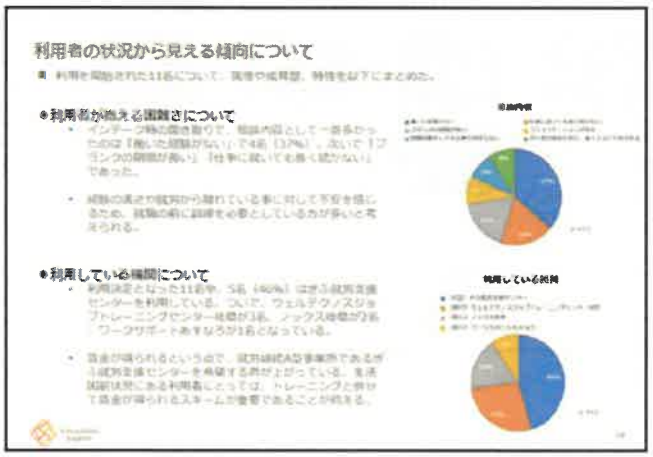


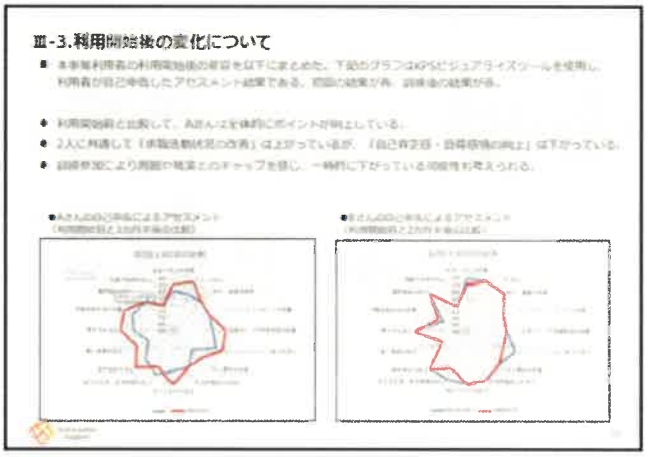
Ⅲ. 本事業の対象者像ならびに利用後の変化について

Sustainable Support

利用につながった相談者一覧
取扱注意
No
相談者の属性
成育歴、特性など


利用者の状況から見える傾向について
●利用者の属性について
●利用者の生育歴/経歴について
利用者の属性
学歴


利用者の状況から見える傾向について
●利用者が抱える困難さについて
●利用している機関について
相談内容
利用している機関


Ⅲ-3.利用開始後の変化について

福岡県 WORK!DIVERSITY事業

福岡県就労支援協同組合

福岡県就労支援協同組合とは

日本初の就労支援協同組合
就労支援団体の相互連携をお手伝いすることで
情報共有や疑問の解消をサポートしています

【設　　立】平成３１年３月
【加盟事業所】現在５０社加盟
【代 表 理 事】中村　信二
「顧問」株式会社日本学研顧問（代表取締役）、株式会社カクジュツ（代表取締役）
学校法人筑紫高等学校　福岡天神校（代表）一般社団法人学研の森（代表）
合同会社HLサポート（現かい信就労支援事業所）（代表社員）
【住　　所】福岡市中央区大名２－９－２９第2プリンスビル１００８号
【許 可 番 号】筑中小第１９４号

福岡県就労支援協同組合とは

活動実績
- 福岡県障がいのある人のための就職合同会社説明会
- 在宅勤務雇用を推進するテレワークセミナー
- 福岡県障がいのある人のためのWEB合同会社説明会
- 障がい者の方のための就労スキルアップWEBセミナー　など

現在の活動
- 月に1回の理事会、定例会の実施
- 工賃向上支援センター事業
- JT日本たばこ産業のSDGs事業
- ときめきショップ運営事業
- 週20時間未満就労事業　など

福岡県WORK!DIVERSITY事業

就労移行支援所のみで事業を実施
- 就労に向けた準備性を高める点を重視
- 移行型には就労支援員、職業支援員が常駐
- 工賃や賃金を目的に事業に参加する方もいる

利用者面談の実施
- コーディネーターが、各地区移行支援所にて月1～2回の面談を実施
- 利用者が希望する場合は、臨時面談を実施

ミーティングの実施
- 「事業所担当者」「マネージメントセンター」「福岡県」　月1～2回
- 「マネージメントセンター」「事業アドバイザー」　月1～2回

令和4度実績

【問　合　せ】22名
【面　　談】8名
【事業利用者】7名（その他2名利用予定）
【男　女　比】3：4
【年　　代】10代：1名　20代：1名　30代：4名 40代：1名
【区　　分】ひきこもり：2名　ニート：2名　生活困窮者：1名　その他：2名

事業利用に至らなかった方へも、適切な支援機関を案内
（外国人雇用センター、生涯現役チャレンジセンターなど）

訓練実施事業所

【訓練実施事業所の支援内容
「就職訓練プログラム・相談・職場実習・就職活動サポート

北九州地区：インクル戸畑・春ケ丘
- ワークサンプル拡張版（MWS）
- 精神ストレス・疲労アセスメントシート（MSFAS）
- 生産活動（軽作業、データ入力作業等）

筑豊地区：ジョブサポートみろく
- ビジネスマナー、コミュニケーションの講学
- 生産活動
（食品加工、精密機器の組立・加工・検査、シール貼り・箱折り
クリーニング、検品や梱入作業、清掃作業など）

訓練実施事業所

福岡地区：キャリアサポート福岡
・パソコン講座（Word基礎・エクセル基礎）
・ビジネスマナーやコミュニケーションの座学
・ＳＳＴやロールプレイ
・職業場面を想定した事務訓練

筑後地区：障害者就労・自立支援センター　たんぽぽ
・資格取得講座（MOS Excel、Word、日本語検定、ビジネス実務マナー検定）
・デザイン講座（Illustrator、Photoshopなどを使ったチラシ・ポスター制作）
・コミュニケーションプログラム（座学）
・ Societyclub（食育活動、ディスカッション、プレゼンテーション）
・生産活動（軽作業、ＤＭ封入作業、図書のデジタル化作業など）

広報・周知活動

広報・周知実績
訪問　85件
チラシ　261件
合計　346件の周知・広報活動を行った（2023年3月1日時点）

事業利用に繋がった周知先
・筑後若者サポートステーション
・障がい基幹相談支援センター
・北九州障害者しごとサポートセンター
・福岡県庁 公式LINE
・障がい者グループホーム アトリエ花畑
・ＮＰＯホームレス支援団体おにぎりの会 等々

既に支援を行っている機関と、どのように連携を行うかが事業成功のカギ

事業の成果

事業利用者の自己理解が深まった
・病院の受診を再開
・検査を受け軽度の知的障害の診断
・様々な働き方がある事を受容
・働きづらさに対して、自身と家族の理解が深まった

人との関わり、作業と振り返りによって自己理解が深まる
・事業利用によって様々な人との関わりが生まれ、自己理解に繋がった
・作業と作業についての振り返りを行う事で、自分の傾向が把握できた
（得意・不得意、現在のコンディション、出来ること・できない事）

事業の成果

今まで困難だったことができるようになった
・場面緘黙の利用者が、返事・挨拶・報告に加え自己紹介ができるようになった
・「ひきこもり状態から一歩踏み出せたのが嬉しい」と利用者が話してくれた
・苦手で避けていた、数字を扱う作業ができるようになった

配慮のある環境でフォローを受けながら挑戦ができる
・就労移行支援所は、体調や生活環境など、利用者の状態に配慮がなされる
・個別面談など、困りごと悩みごとの相談やフォローを受けられる
・事業利用者に合ったステップを踏んで挑戦する事が出来る

事業の成果

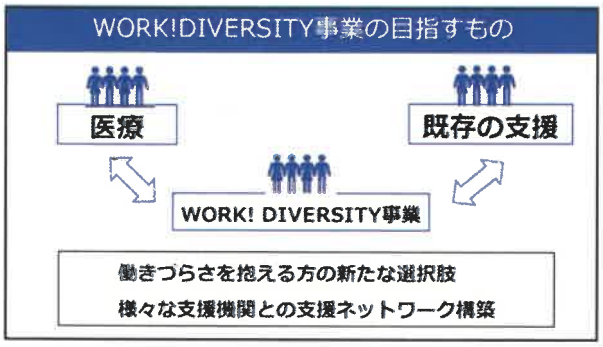
事業利用者の立ち振る舞いに良い変化があった
・面談時の笑顔や会話が増えた。
・苦手なことに自分から挑戦する。

信頼関係の構築・安心して訓練が行える環境の提供
・スタッフが毎月面談を実施することで、信頼関係が築けた
・就労移行支援所の職員が、リラックスして過ごせるよう配慮を行っている
・移行支援所に通う他の利用者の頑張る姿が刺激になった

事業の成果

１名の就職者が出た
・自ら動いて、給食センターの調理補助の就職が決まる
・２年間働き、調理師免許の取得を目指したいと前向きな目標を持つ

支援が就労の準備性を高めた
・面接練習を受けたことで、自信を持って本番に臨めた
・移行支援所の他の利用者が頑張っている姿が刺激になった
・時間が決まったスケジュールの中で動くことが、就職の予行演習になった


WORK!DIVERSITY事業の目指すもの
医療
既存の支援
WORK! DIVERSITY事業
働きづらさを抱える方の新たな選択肢
様々な支援機関との支援ネットワーク構築